

令和7年度 むつみ幼稚園 自己評価結果総括表

1.本園の目指す幼児像

- 元気に挨拶ができる子
- 何事にも一生懸命になれる子
- 基本的な生活習慣を身につけられる子

- 強いからだと優しい心を持つ子
- 生き生きとした素直な心で、物事が見られる子

目 重 標 点	評価項目	評価指標及び評価結果						コメント評価結果に関する説明・意見書	
		基 準	取組指標	取組 結果	基 準	成果指標	成果 結果		総括 評価
子どもの 育心保育の 充実を 主体性を	自ら考え・遊び 行動をする姿の育成	4	一人一人の幼児の発達に必要なコーナーを設置する。	2.9	4	遊びにブームができ、遊びが広がっていった。	2.8	2.9	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの興味関心や学びの状況を捉え、環境の構成を行うことができるようになってきた。 ・子どもたちは、自分で好きな遊びを選び、楽しむ姿が見られるようになったが、自ら遊びを発展させるまでには至ってなく、また遊びの継続が難しいと感じる。 ・一部の子どもは、遊びを楽しめるまで到達してなく、主体性を感じられない場面も見られる。 ・保育者は、遊びの発展に向けた見通しのある援助を意識するように心掛け、多様な学びの可能性をイメージしながら環境の構成や援助の工夫を行う必要があると感じる。
		3	幼児が必要と感じた時に、タイミングよく、用具・教材を提示する。		3	好きな遊びに集中して遊ぶようになった			
		2	幼児の遊びや興味・関心に応じたコーナーを設置する。		2	好きな遊びを見つけて遊ぶようになった			
		1	幼児が遊びを選ぶように、いくつかのコーナーを設置する。		1	幼児たちは、何して遊ぶか戸惑う。			
安心・安全な 教育環境の 整備	事故防止体制の整備	4	生命の安全教育の研修や教材研究を重ね、幼児一人一人を守る。	3.1	4	保育者の紙芝居や話を聞き、自分や友だちの体の大切なおこころに気付く。	2.7	2.9	<ul style="list-style-type: none"> ・定期的な安全点検、避難訓練を行うことができ、実際に起こった際にはどのように行動すべきかなど、色々な場面を想定して訓練することができた。 ・子どもたちの安全を考え、環境を構成することができ、保育者の安全に対する意識も高まってきているように感じるが、防げたであろう怪我などもあり、見直しが必要な場面もあるため、職員間で今一度安全について考えなければならない。 ・子どもたちと一緒に安全に対する対話を行うことで子ども自身自身の意識も変わってきているように感じるため、引き続き続けていきたい。
		3	生命の安全教育の研修を受け、正しい性教育を学ぶ。		3	痛みを共感し、自分も友だちもケガをしないようにし、身体を大切にすること。			
		2	ケガや病気をしないように、自分の身体の大切さを幼児に知らせる		2	自分の身体を大切にケガをしないように気を付ける。			
		1	幼児のケガに対して、治療しながら痛みを共感し、治療をする。		1	ケガをすると痛いことに気付き、治療してもらおう。			
信頼関係の 強化	情報発信の充実と相談 体制の強化	1	ICTや各種たよりを活用し、タイムリーで分かりやすい情報配達が継続的に行われている。加えて、相談しやすい環境が整備され、個別対応も丁寧に実施されている。	2.5	1	保護者が園の方針や子どもの様子を充分理解し、安心感と信頼関係が高い状態で築かれている。	2.5	2.5	<ul style="list-style-type: none"> ・日々の子どもたちの様子などをクラスだより、むつみシート、または直接保護者へ発信している。 ・子どもの成長と一緒に喜ぶことで、信頼へとつながっていると感じる。 ・相談しやすい環境を整え、相談内容は職員全体で共有し、今後の対応を話し合うようにしている。しかし、一部の保護者の理解不足も感じるため、足りない部分を確認し、園の方針を伝えながら、丁寧に向き合う必要性を感じる。 ・保護者が安心して子どもたちを預けることができる環境を引き続き作っていきたい。
		1	毎日の送迎の際や個人懇談で、直接保護者に幼児のことを伝えることが出来た。		1	園の取り組みに対する理解が進み、安心して子供を預けている様子が見られる。			
		1	情報発信は行われているが内容や頻度にばらつきがあり、相談体制も十分とはいえない。		1	理解や安心感にばらつきがあり、一部に不安や不満が見られる。			
		1	情報発信や相談体制が不十分で、保護者との連携が十分に図られていない。		1	園情報が十分に伝わっておらず、不安や不信感が見られる。			
職員の 専門性 向上	保育の振り返りと改善	4	日常的に保育の振り返りが行われ、記録・共有が徹底されている。課題が明確化され、具体的な改善が継続的に実践されている。	3.1	4	振り返りを生かした保育改善により、子どもの主体性や関わりが豊かになり、保育の質の向上が明確に見られる。	3	3	<ul style="list-style-type: none"> ・日・週、学期、年度末に保育の振り返りを行い、改善すべき点などを再確認するようにしている。 ・振り返りを行うことで、子どもの姿を明確に捉えることができ、子どもたちに必要な環境を準備する手立てとなっている。 ・子どもの今の姿を捉え、環境を構成することで、子どもたちの気づきが増え、意欲的に遊んで取り組んでいると感じる事ができた。 ・個人で振り返りを行うことの方が多いため、些細な事でも職員間で共有し、対話をする時間をもっと確保し、意見交換する必要があると感じる。
		3	定期的に振り返りが行われ、課題を踏まえて改善が実施されている。		3	保育の改善が見られ、子どもの姿にも良い変化が見られる。			
		2	振り返りは行われているが、記録や共有が不十分で改善につながりにくい。		2	一部に改善は見られるが、保育の質の向上や子どもの変化が十分とはいえない。			
		1	振り返りや改善の取り組みがほとんど行われていない。		1	自保育の改善が進まず、子どもの姿にも大きな変化が見られない。			

- ★取組と成果
- A 十分達成
 - B 概ね達成
 - C やや課題あり
 - D 改善が必要

○総合な評価結果

評価	
	<p>・本年度は、「子どもの主体性を育むの充実」「安全安心な教育環境の整備」「保護者との信頼関係の強化」「職員の専門性の向上」の4点を重点目標として取り組んできた。</p> <p>・子どもの主体性の育成においては、環境構成や援助の工夫により、自ら遊び、選び、友だちと関わりながら活動を深める姿が見られるようになってきた。一方で、活動の広がりや継続性については、さらなる工夫の余地も見られる。</p> <p>・安全安心な環境整備については、日常的な点検や職員間の情報共有が進み、安定して生活環境の確保につながっている。今後は、予防的視点をより一層強化し、子ども自身の安全意識の育成にもつなげていく必要がある。</p> <p>・保護者との信頼関係においては、丁寧な対応や情報発信を通して概ね良好な関係が築かれている。一方で、保護者にとって分かりやすい情報提供の在り方や、双方向の関わりについて引き続き改善が求められる。</p> <p>・職員の専門性の向上については、研修を通して学びを共有し、保育実践への活用が進んできている。今後は、学びを組織的に循環させ、園全体の質のさらなる向上を図ることが課題である。以上のことから、本年度の取組は全体として一定の成果が認められるものの、各分野においてさらなる充実と改善が必要である。今後は、取組の見える化や共有の工夫を進めるとともに、組織的取り組みの質を高め、より一層の教育・保育の充実を図っていく。</p>

○次年度の課題

	課題	現状	課題具体表現
1	保育の言語化・共有不足	<ul style="list-style-type: none"> ・「楽しかった」「よく遊んでいた」で記録が止まっている。 ・保育の意図が言葉になっていない。 ・クラス・グループごとに記録の質や書き方に差がある。 	子どもの姿・保育の意図・育ちを結び付けた記録や振り返りが十分ではなく、職員間での共通理解に差が見られる。
2	実践改善につながる振り返りの弱さ	<ul style="list-style-type: none"> ・振り返りが「反省」で終わっている。 ・話し合いが感想レベル(良かった・大変だった) ・次にどう変えるかが明確になっていない。 	振り返りが具体的に改善につながっておらず、実践の見直しや工夫が継続的に行われていない。
3	環境構成と援助のばらつき	<ul style="list-style-type: none"> ・コーナー遊びの設定にクラス・グループ差がある。 ・遊びが単発で終わりやすい。 ・保育者が関わりすぎる/関わらなさすぎる場面がある。 	子どもの遊びの継続や発展を支える環境構成や援助にばらつきがあり、主体的な遊びの充実に課題が見られる。

<意見>

園を訪問する度に、子どもたちの元気なあいさつが聞かれます。まずは基本となる「あいさつ」が出来ていると思います。

子どもが自由に安全に遊ぶ中で、学びを深める為、その計画準備、そして振り返りは大切で、その観察力も求められます。先生方には、自身の学びでもあり、様々な発見もあると思うので、今後とも学びを重ねて頂きたいと思います。

日々子どもたちの笑顔の一瞬を見つけた下さい。応援しています。